

## 夫が亡くなって

67歳 女性

平成23年12月の深夜に、夫が自損の交通事故を起こし帰らぬ人となって1年が経ちました。

夫は60歳で大工の仕事を引退した後、今回の交通事故で亡くなるまで平戸の新聞配達センターで新聞配達員として働いていました。

夫は、仕事の関係で朝方が中心の生活スタイルで、いつも午前1時過ぎに起きて新聞配達に出かけていました。

夫が事故を起こした前日の事から話します。

夫はいつも一番風呂に入るものですから、一緒にご飯を食べた後、夕方から風呂に早く入って、見たいテレビも見ないようにして早く寝ました。

その後、午前1時過ぎ頃、自分で起きて新聞配達の仕事に出かけました。

夫は、新聞配達に出かける時、いつも「今日は暑かたい、今日は寒かたい。」などと言って仕事に出かけていましたが、私はこの時「黙って出かければよかたい。」といつも思っていました。

仕事の時はいつも、午前1時45分頃に家を出て行って、自分の車でセンターまで行き、センターから車を乗り換えて新聞を配達していました。

毎朝7時頃に仕事が終わった後、自宅へ朝7時半位に帰って来ていたのですが、その日、夫は自宅に帰って来ることはありませんでした。

午前4時頃、夫の職場の女性から連絡があり、「夫が交通事故を起こして心拍停止の状態です。病院へ搬送されました。」と聞かされました。

私は、この連絡を聞いて気が動転しながらも病院へ急いで行き、暫くして警察の方とお話しをして、夫が車を運転中に道路右側のガードレールの柱に衝突する交通事故を起こしたことを知りました。

道路が下り坂で左カーブになっているのは分かっていたんだろうけど、それだけスピードが出ていたので曲がり切れなかったのかなと思っています。

今回の交通事故で夫が亡くなった後、家族のおかげで救われました。

それは、お昼も自分達（長男夫婦など）は仕事に出かけているのですが、働き先から電話で「お母さん、大丈夫？」と電話があったり、皆が遊びに来てくれたりしたので助か

りました。

夫は、何も無かったらもっと長生きしていたと思いますが、他の皆は「お父さんの寿命だったんだ。」と言っていました。

夫が事故で亡くなるまでは、幸せな家族で、周りの皆から羨ましがられる家族でした。

私は今回の夫の交通事故の後、息子にいつも「注意せろ、注意せろ。」「お父さんの二の舞は踏むなよ。」と言っており、私自身も車の運転をするので、運転には気をつけています。

お父さんは、晩酌でビール350mlと焼酎を水割りで飲んでいまして、今でもその時のコップは大切にっています。

私は、お父さんが交通事故で亡くなってから、雨の日以外は毎日、熱いお茶をポットに入れてお墓参りに行っています。

お墓に夫が待っているような気がして。

「今日は何してきたよ、お寺行ってきたよって。」いつも語りかけているんです。

夫が向こう（墓）にいると思えるので寂しくないんです。

普通だったら寂しいと思うでしょうが、夕方になっても、「お父さんが向こうにおるって。」思うと寂しくないんです。

私は向こう（墓）で「お父さん、昨日はきいきらんで、ゴメンね！」とか、私が用事でどこかに行く時は、「明日はここに、きいきらんけんね！お父さん。」と言って帰って来ます。

また、お爺ちゃんや婆ちゃんも、同じお墓なので「爺ちゃん、婆ちゃん寒うなったけん、風邪ひかんごとしとかんばよ！」と、そこにいるように、普通に喋ってきます。

「お父さん！爺ちゃん、婆ちゃんば風邪ひかんごと見とってやらんばばい！寒うなったけんね。」と、すぐそこにいるように呼びかけてます。

貼り薬もちゃんとお墓に置いているんです。

私の姿を見て周りの人は皆、「あんたは感心ね。毎日のごとお墓行って。」と、言っていますが、私は、「いや、待つとるっちゃん。」と笑うのです。

夫が亡くなって1年になりますが、お墓に行かなかった日は、10日位しかありません。

もう毎日みたいにお墓に行っています。家族ですもの。

今後も長男夫婦と仲良くやって行こうと思います。

うちのお父さんは69歳で亡くなりましたが、65歳を過ぎた年配の運転者さん達は、十分注意して運転して貰いたいと思います。